

則常世之浪重浪歸國也、傍國可伶國也、欲居是國故隨大神教其祠立於伊勢國、

〔神名秘書〕常世國者云仙宮也、伊勢島與常世國其境未遠故常世之浪重浪寄來國也、因以號重浪之國也、故則當國魚類海草珍美也、又柑類菓茂昌此之緣也、

〔倭姬命世記〕十四年○垂九月一日還幸于伊勢桑名野代宮○中國建造日方命參相支汝國名何問給答自久神風伊勢國止自二十五年三月于時猿田彥神裔宇治土公大田命參相支○倭姬命問給久有吉宮處哉答曰久○往昔大神誓願給比天豐葦原瑞穗國之内爾伊勢加佐波夜之國波在美宮處止見定給比天從天上志天投降坐比志天逆大刀逆鉢金鈴等是也二十六年十月甲子奉遷手天照大神於度會五十鈴原河上○中爰倭姬命朝日來向國夕貝來向國浪音不聞國風音不聞國弓矢鞞音不聞國打摩伎志賣留國敷浪七保之吉國神風伊勢之國百船度會郡之佐吉久志昌五十鈴宮爾鎮理定給止國保伎給支○

一書曰○中故則天皇○雄御手三柱靈尊○天照大神受大神訪神風之地比尋重浪之國天天降鎮座給倍利

〔冠辭考〕かんかせのいせの國○中略

これは神風の息といふべきを略きて伊の一語にいひかけたるなり何ぞなれば神代紀に我所生之國唯有朝霧而薰滿之哉乃吹撥之氣化爲神號曰級長戶邊命亦曰級長津彥命是風神也と云て風は天津神の御息なれば神風のいきとはいふべき事也○註さて万葉卷三に○註神風爾伊吹惑之天雲乎日之目毛不令見云々これは右の吹撥之氣云々の語によりてよみたれば伊吹は卽息吹の上のきを略きし事有に同じ大祓詞に氣吹戸主止云神根國底之國氣吹放氏といへるも氣をいとのみよめりはた一語に云かくる冠辭の例は下に多し○註

仙覺は風土記を引て伊勢津彥の神風を起して信濃國へ去しより神風の伊勢とはいふと